

ワンニャン通信

2018.
11月号

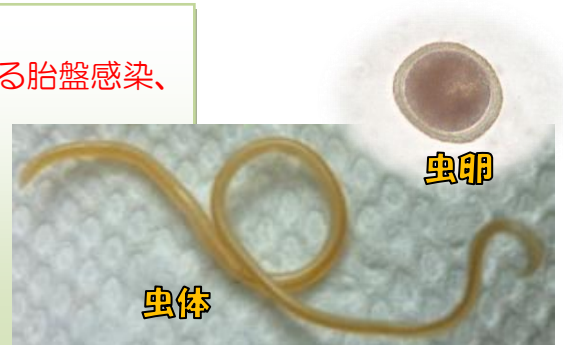
最近、犬にはふかふかのベッドを、人には羽毛布団を出しました。
そして朝に布団から出るのがつらい今日この頃です。
さて、今回はお腹の中に寄生する虫たちについてです。



回虫

感染経路：虫卵が口の中に入る経口感染、母犬の胎内で感染する胎盤感染、乳汁からうつる経乳感染。また、幼虫を体内にもつネズミやゴキブリ等を食べることで感染します。

症状：幼犬(猫)では下痢、嘔吐、血便などの症状が出てきます。成犬(猫)はほぼ無症状のことが多いです。



鉤虫

感染経路：幼虫が口の中に入る経口感染、皮膚から入る経皮感染、母犬(猫)の胎盤や乳汁から幼犬(猫)から感染する胎盤感染、経乳感染があります。

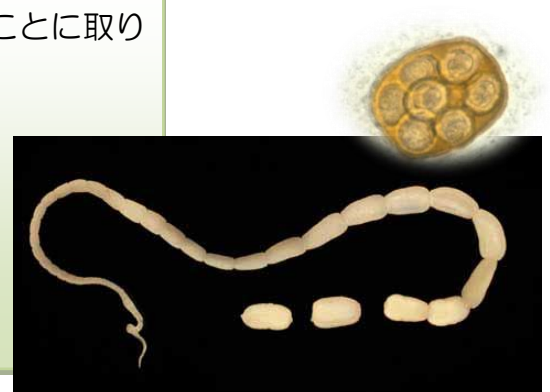
症状：黒っぽい下痢、貧血などがあります。吸血性寄生虫なので、大量に寄生されると生後間もない幼犬は貧血により命に関わることも。



瓜実条虫

感染経路：幼虫が潜んでいるノミをグルーミングなどで取り込むことに取り込むことにより感染します。

症状：ほとんどは無症状ですが、多数の寄生がある場合激しい下痢や、体重減少がみられます。また腸管内で切り離された米粒のような虫体の一部(片節)が肛門から排泄されることがあります。



マンスン裂頭条虫

感染経路：幼虫が潜んでいるカエルや蛇を食べることによって感染します。

症状：下痢、粘膜便、血便などがあります。
数cm～数十cmの長さで排出されることが多く、ときおり肛門にぶらさがった状態で見つかることも。



コクシジウム

感染経路：犬(猫)から排泄された**オーシスト**と呼ばれる、卵のようなものが犬(猫)の糞便、食べ物などに付着し、犬(猫)が舐めたり食べたりしてしまうことで感染します。

症状：幼犬(猫)や免疫力が低下している犬(猫)に感染すると、下痢や血便、粘膜便といった糞便を排出するようになり、嘔吐や食欲の低下、元気減退といった症状もみられるようになります。
免疫力が安定している犬(猫)に感染した場合は特に症状はなく、発症した時にもちょっとした下痢程度の症状で収まります。

オーシスト

成熟

成熟オーシスト



シアルジア

感染経路：厚い皮膜に覆われた**シスト**と呼ばれる卵状の状態です。土や水たまりに潜伏し、経口感染します。そして小腸にたどり着くと虫体になり成長、増殖を繰り返します。

症状：成犬(猫)に比べ、幼犬(猫)の方が感染率が高く、下痢やひどい軟便があり、あまりに症状が長引いてしまうことで発育不良を起こすことがあります。

シスト、オーシストの状態だと外の世界でも生きられる強い抵抗力の膜をかぶっているよ！

シスト



別名：ランフル鞭毛虫



今回紹介した寄生虫の一部はこちらの薬で予防ができます！
また、便に症状がある、虫が付いていた場合は診察時にその子の便も持って来られてください。
人にも感染することもあるので、犬や猫と遊んだ時には手をしっかり洗いましょう！